

2019年3月期 第3四半期

決算の概要

2019年2月7日



- ✓ 基本的に連結ベースで対前3Qとの増減につき解説

主要数値の実績と第3四半期進捗率

【連結】

- ✓ 受注は前期から大幅減少。注力案件の第4四半期集中により進捗率も低調
- ✓ 各段階利益は、前期の最高益から減益となるも、過去3番目の利益水準を確保

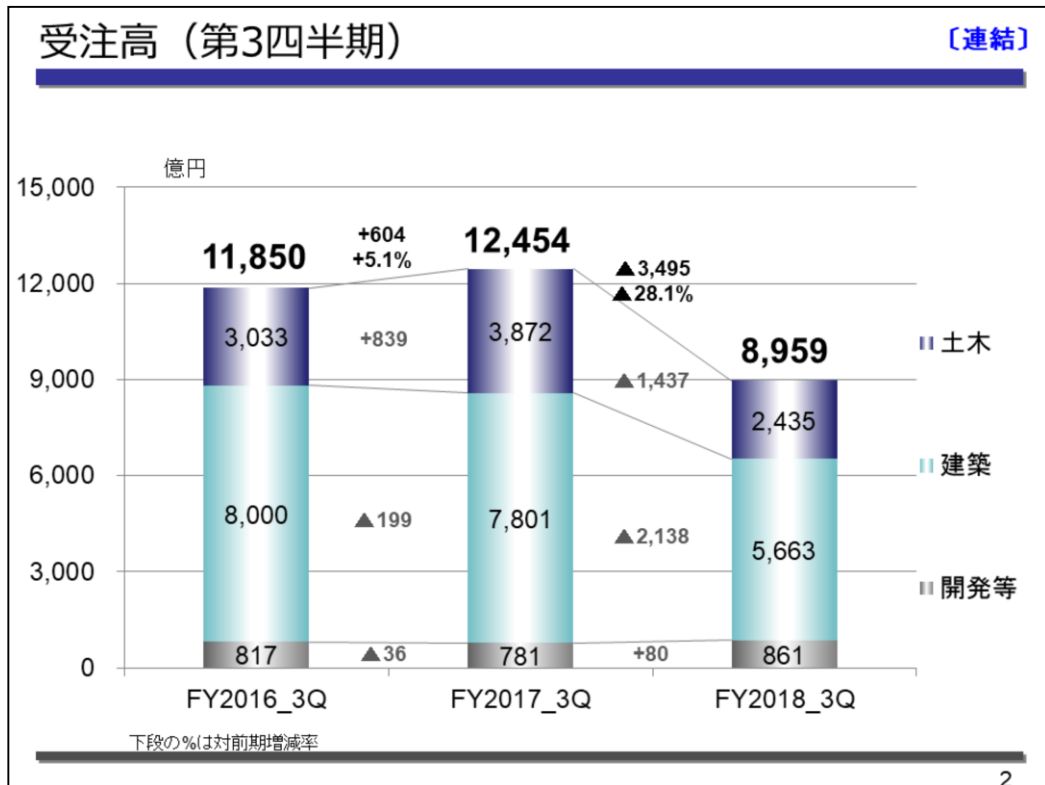
(億円)

	FY2017 3Q 実績	FY2018 3Q 実績	増減	FY2018 通期 予想	3Q進捗率 (対通期予想)
受注高	12,454	8,959	▲3,495	16,300	55.0%
売上高	10,830	10,975	+145	16,100	68.2%
売上総利益	1,744 16.1%	1,481 13.5%	▲263 ▲2.6Pt	2,240 13.9%	66.1%
営業利益	1,147 10.6%	854 7.8%	▲293 ▲2.8Pt	1,370 8.5%	62.3%
経常利益	1,176 10.9%	893 8.1%	▲283 ▲2.8Pt	1,390 8.6%	64.2%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	810 7.5%	622 5.7%	▲188 ▲1.8Pt	960 6.0%	64.8%
1株当たり 四半期純利益(円)※	357.63	282.19	▲75.44	436.55	64.6%

※2017年10月1日付で当社株式5株につき1株の割合で株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定

1

- 受注高は、土木・建築ともに、前期に見られた大型案件が少なく、また注力案件が第4四半期に集中していることから、前期を大きく下回りました
- 売上高は前期並みとなりましたが、売上総利益以下の各段階利益は前期を下回りました
- 売上総利益の低下は、期中に最終決算を迎える収支が改善した工事が多かった前期からの反動などにより、売上総利益率が低下したためです
- ただし、利益水準は、前々期に次ぐ過去3番目の水準を確保しました
- なお、業績は概ね社内計画とおりに進捗しています



【土木】

[単体]・国内土木は、官庁および民間工事とともに前期に見られた大型案件が少なく、また注力案件が第4四半期に集中していることから、
▲1,464億円の減少

・海外も▲21億円の減少となり、単体全体で▲1,485億円の減少

[連結]・子会社等は+48億円の増加となるも、連結全体で▲1,437億円の減少

【建築】

[単体]・国内建築は、前期に見られた大型案件が少なく、また注力案件が第4四半期に集中していることから、▲2,150億円の減少

・海外も▲120億円の減少となり、単体全体で▲2,270億円の減少

[連結]・子会社等は+132億円の増加となるも、連結全体で▲2,138億円の減少

【開発等】

[単体]・棚卸不動産売却の契約増などにより+33億円の増加

[連結]・子会社等は大成有楽不動産における分譲マンションの販売増などにより+47億円の増加となり、連結全体で+80億円の増加

〔参考〕当第3四半期累計期間の主な受注工事〔土木〕〔単体〕

官 民	工事名称	発注者
民	中央新幹線名古屋駅新設(中央東工区)	東海旅客鉄道株式会社
官	成瀬ダム原石山採取工事(第1期)	国土交通省 東北地方整備局
民	北陸幹舞崎Bi新設他工事	西日本旅客鉄道株式会社
民	(仮称)泉PT第6住区東工区開発計画造成工事	三菱地所株式会社 パナソニックホームズ株式会社 関電不動産開発株式会社
民	徳島津田バイオマス発電所〔土木工事〕	徳島津田バイオマス発電所合同会社

官：官庁
民：民間

主な受注工事は記載の通り

〔参考〕当第3四半期累計期間の主な受注工事〔建築〕〔単体〕

官 民	工事名称	発注者
民	東京エレクトロンテクノロジーソリューションズ 東北事業所新棟新築工事	東京エレクトロンテクノロジー ソリューションズ株式会社
民	千葉銀行本部棟建替え計画	株式会社千葉銀行
民	ハーモニック・ドライブ・システムズ有明工場新工場 新築工事	株式会社ハーモニック・ドライ ブ・システムズ
民	味の素株式会社(仮称)東海事業所新工場建設工事	味の素エンジニアリング株式 会社
民	北里大学医療衛生学部(仮称)新A号館新築工事・A3 号館改修工事・A3号館修繕工事	学校法人北里研究所

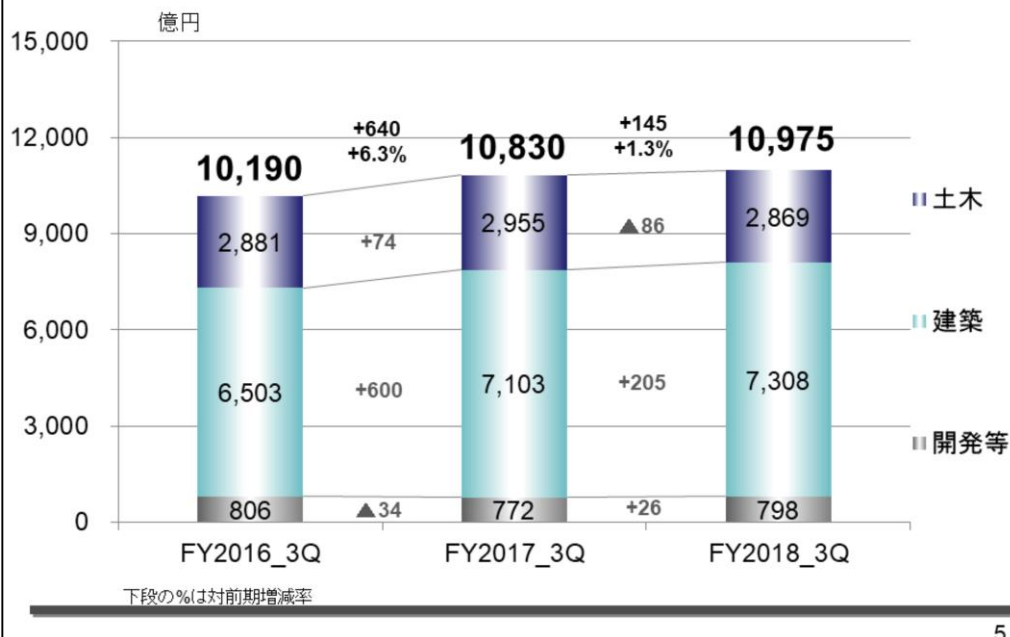
官：官庁
民：民間

主な受注工事は記載の通り

- ✓ なお、発注者の都合などにより、上記に掲載していない主な受注工事としては、民間サービス業(市街地再開発組合)による事務所等新築工事、民間不動産業による宿泊施設新築工事などがありました

売上高（第3四半期）

〔連結〕



5

【土木】

[単体]・国内土木は期首手持ち工事の増加を背景に+24億円の増収となるも、海外土木は期首手持ち工事の減少により▲54億円の減収となり、単体全体で▲30億円の減収

[連結]・子会社等も▲56億円の減収となり、連結全体で▲86億円の減収

【建築】

[単体]・国内建築は期首手持ち工事の増加を背景に+119億円の増収、海外建築は前期並みとなり、単体全体で+122億円の増収

[連結]・子会社等も+83億円の増収となり、連結全体で+205億円の増収

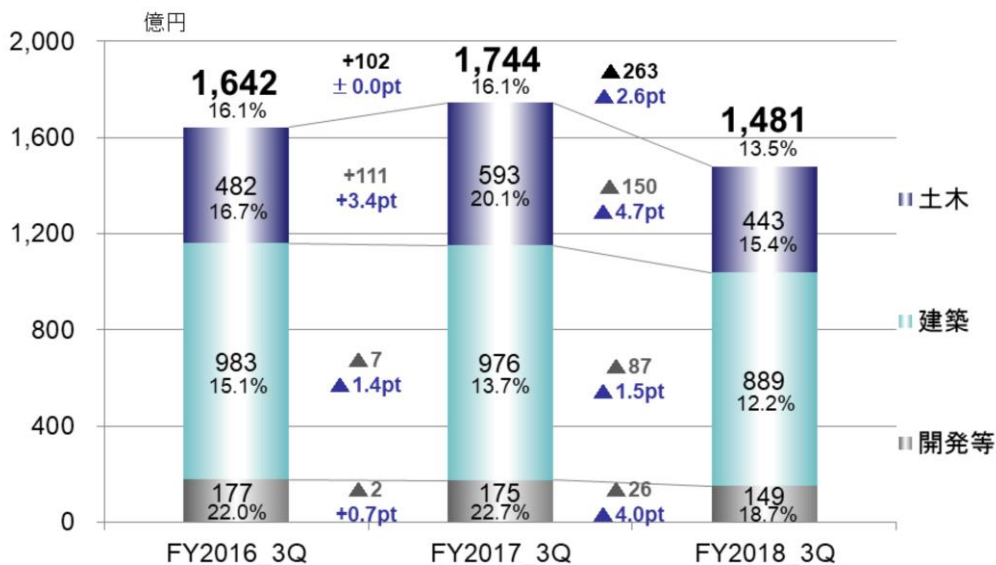
【開発等】

[単体]・棚卸不動産の売却減などにより▲26億円の減収

[連結]・子会社等は大成有楽不動産における分譲マンションの販売増などにより+52億円の増収となり、連結全体で+26億円の増収

売上総利益（第3四半期）

〔連結〕



下段の青字ptは前期利益率からの増減

6

【土木】

[単体]・期中に最終決算を迎える収支が改善した工事が多かった前期からの反動などにより、▲113億円の減益

[連結]・子会社等も▲37億円の減益となり、連結全体で▲150億円の減益

【建築】

[単体]・期中に最終決算を迎える収支が改善した工事が多かった前期からの反動などにより、▲98億円の減益

[連結]・子会社等は+11億円の増益となるも、連結全体では▲87億円の減益

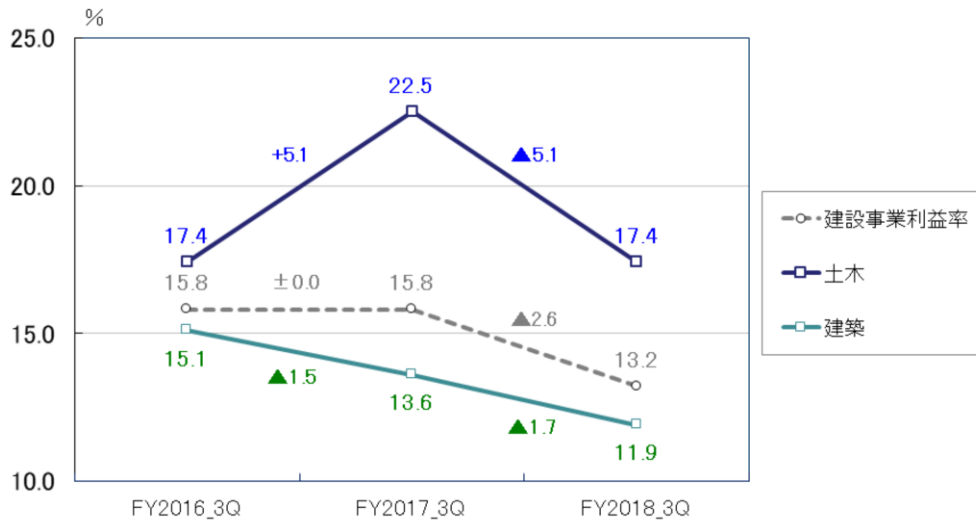
【開発等】

[単体]・棚卸不動産の売却減などにより▲7億円の減益

[連結]・子会社等も、大成有楽不動産で前期にオフィスビルの売却益があった反動などにより、▲19億円の減益となり、連結全体で▲26億円の減益

〔参考〕単体・完成工事利益率（第3四半期）

〔単体〕



7

【土木】

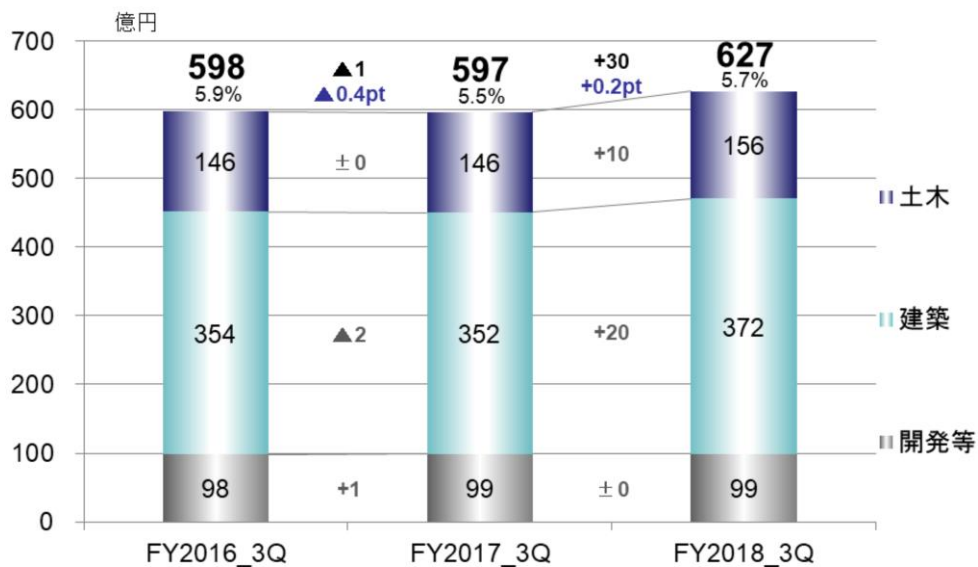
- ・ 期中に最終決算を迎える収支が改善した工事が多かった前期からの反動などにより、▲5.1ポイント低下

【建築】

- ・ 期中に最終決算を迎える収支が改善した工事が多かった前期からの反動などにより、▲1.7ポイント低下
- ・ なお前々期は、前期と同様に期中に最終決算を迎える収支が改善した工事が多かったことに加え、海外大型工事の追加工事獲得が寄与

販管費（第3四半期）

〔連結〕



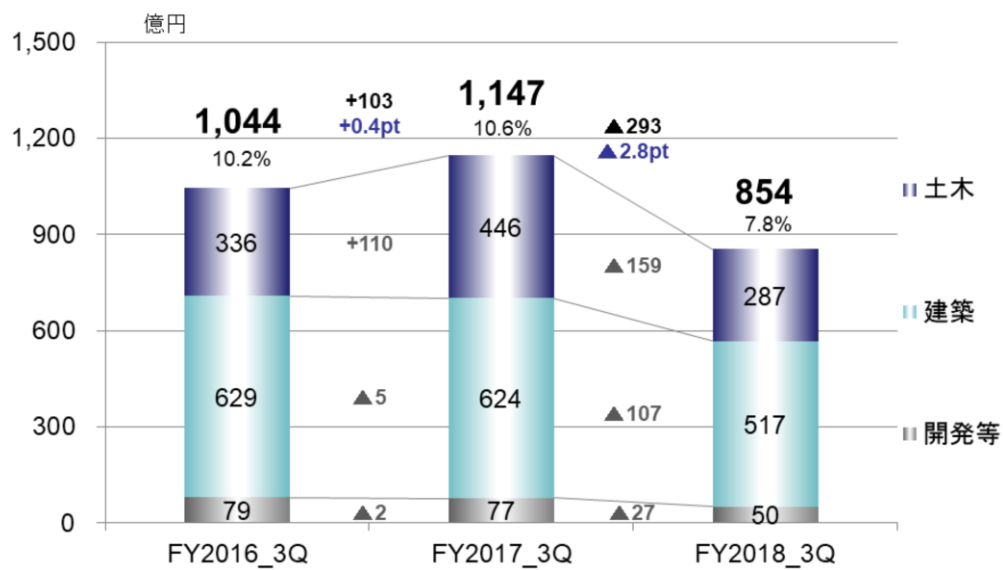
8

〔単体〕・人件費の増加などにより前期から+22億円の増加

〔連結〕・子会社等も+8億円の増加となり、連結全体で+30億円の増加

営業利益（第3四半期）

[\[連結\]](#)

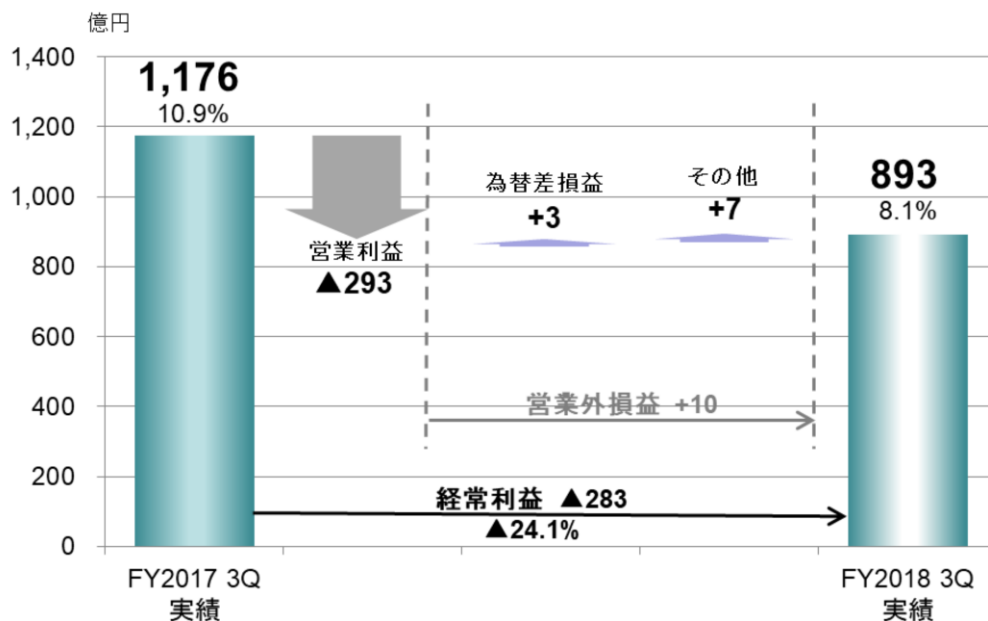


9

- 売上総利益の減益▲263億円および販管費の増加+30億円により、前期から▲293億円の営業減益

経常利益 – 増減分析 – (第3四半期)

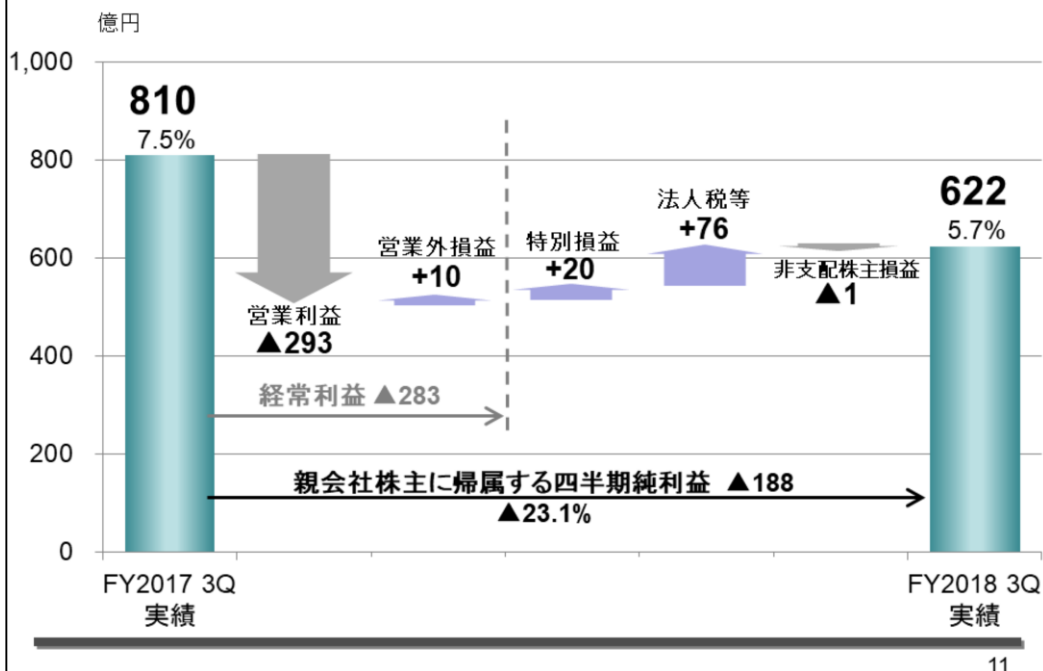
[\[連結\]](#)



10

- 為替差損益の改善などにより営業外損益が+10億円改善したものの、営業減益▲293億円により▲283億円の経常減益

親会社株主に帰属する四半期純利益－増減分析－（第3四半期） [\[連結\]](#)



- 子会社で固定資産売却益の計上があったことなどにより特別損益が+20億円改善したものの、経常減益▲283億円により、親会社株主に帰属する四半期純利益は▲188億円の減益